

2024年第4回IEEE東京支部理事会 議事録(案)

日 時：2024年12月10日(火) 15:00~17:30

場 所：機械振興会館 6-66 会議室

出席者：相澤 Chair、佐田 Vice Chair、奥村 Secretary、樋口 Treasurer

<以下 順不同>

添谷 COC Chair、森田 FNC Chair、賀屋 MD Chair、中村 NC Chair、松尾 TPC Chair、金 PC Secretary、植村 SAC Chair、喜々津 HC Secretary、久本理事会指名理事、太田 LMAG Chair、石垣 YP Chair、Kawamoto WIE Chair、中野 Past Chair、重松 Past Secretary、前原 Past Treasurer、西宮 SIGHT Chair、滝嶋 HTC2025 運営委員長・次期 JC Vice Chair

オブザーバー

鈴木次期 Vice Chair、木村次期 COC Chair、平野次期 NC Chair、松本次期 TPC Chair、林次期 LMAG Chair、小野寺次期 YP Chair

事務局：加藤事務局員、福岡事務局員

幹事会社：木村

次期幹事会社：千野

議題：

1. 前回理事会議事録の確認【審議】 (資料1)
2. 2025-2026年支部役員・理事・委員会メンバー【審議】 (資料2)
3. 2025-2026年 Japan Council 東京支部代表理事【審議】 (資料3)
4. 2024年東京支部活動報告 (資料4)
5. 2024年東京支部決算予想 (資料5)
6. 委員会2024年活動報告・予算執行状況および2025年活動計画・予算案【審議】
  - ・ Chapter Operations Committee (資料6-1)
  - ・ Fellow Nominations Committee (資料6-2)
  - ・ Membership Development Committee (資料6-3)
  - ・ Technical Program Committee (資料6-4)
  - ・ Publications Committee (資料6-5)
  - ・ Student Activities Committee (資料6-6)
  - ・ History Committee (資料6-7)
  - ・ Nominations Committee (資料6-8)
7. Affinity Group 2024年活動報告・予算執行状況、2025年活動計画・予算案【審議】
  - ・ Life Members Affinity Group (資料7-1)

- ・ Young Professionals Affinity Group (資料 7-2)
- ・ Women in Engineering (資料 7-3)
- 8. 2025 年東京支部活動計画 【審議】 (資料 8)
- 9. 2025 年東京支部予算 【審議】 (資料 9)
- 10. Educational Activities (EA) Chair の独立について 【審議】 (資料 10-1)
- SIGHT 報告 (資料 10-2)
- IEEE VICS 2025 へのスポンサー参加の提案 【審議】 (資料 10-3)
- HTC2025 について 【審議】 (資料 10-4)
- 次期理事会への引継事項 (資料 10-5)

**【議事】**

**0. IEEE 東京支部相澤 Chair より開会の挨拶**

相澤 Chair より開会の挨拶が述べられた。

**1. 前回理事会議事録の確認 【審議→承認】 (資料 1)**

奥村 Secretary より前回理事会の議事録について説明があり、審議・承認された。

**2. 2025-2026 年支部役員・理事・委員会メンバー 【審議→承認】 (資料 2)**

奥村 Secretary より、Japan Council 東京支部理事会メンバーについて、四役の決定、WIE、次々期幹事会社（富士通）の Secretary が未定であるものの、総勢 23 人で構成する旨等報告があり、承認された。

**3. 2025-2026JC への東京支部代表理事について 【審議→承認】 (資料 3)**

奥村 Secretary より、資料は YP Chair となっているが、COC Chair となる訂正報告があった。結果、東京支部代表は Chair、Vice Chair、COC Chair、WIE Chair の 4 名に決定したことにつき報告があり、承認された。

**4. 2024 年東京支部活動報告**

奥村 Secretary より、以下の通り報告があった。

2024 年は理事会を東芝、LINE と様々な場所で開催してきた。MD では、Fellow 増強のベースとなる Senior Member 増強のために、JC と共催で実施した「Senior Member 申請支援 Webinar」の録画データを継続公開、Fellow 増員については JC Ad-Hoc Committee と連携、Chapter については、JC COC から東京 COC に業務の引継ぎがあった。Professional and Continuing Education Activities としては 11 件のイベント開催。Student Activities では 10 件のワークショップ等のイベント開催。YP は YP サロンやサマーサイエンススクール等 11 件

のイベントを開催。LMAG ではニューズレター発行、総会開催。JC でも話題になったが、WIE の札幌支部が開催した Idea Jam を東京・信越支部が共催した。Award 関連では、6 名の Fellow が昇格し、表彰式を開催。Communication Activities ではメルマガを 9 件発行。History Committee Activities では、TRON 電腦ハウス、日本光電のパルスオキシメーターが Milestone に認定され、現在 14 件が申請されている。

## 5. 2024 年東京支部決算予想

樋口 Treasurer より、以下の通り報告があった。

11 月までの中間会計報告と決算予想について。収入では、Section Assessment や Rebate が入り、元々の予算より増額になっている。SIGHT の Fund、Section Assessment の後期分が入った。予算立ての時点では \$ 1=135 円のところ、実際には \$ 1=153 円程での入金だったため、収入が増えている。支出については、当初の計画に沿った活動が行われている。12 月にも WIE のイベント開催等もあるが予測は 100%に近い。繰越金や為替の影響により予算よりも赤字幅が縮小した。

## 6. 委員会 2024 年活動報告・予算執行状況および 2025 年活動計画・予算案【審議】

### ・ Chapter Operations Committee

添谷 COC Chair より以下の通り、報告があった。

2024 年 1 月から 12 月の間で、国際会議 Sponsorship(MOU)に関する承認答申 5 件 (TCS を 2 件、FCS を 3 件) の審議を実施した。また Chapter 支援費審査も行った。これまで全 12 回の役員会を開催し、延べ 53 件を審議し、そのうち 40 件を承認した。12/9 の役員会では 7 件を承認した。11 月に開催された第 2 回 JC COC 会議において、「国際会議 Sponsorship の承認手続きについて」の参照先 URL の差替えを報告した。2025 年は Chapter 支援費審査では細かいコミュニケーションの必要性が出てきたため、役員会を年 1 回程度は対面での開催を検討している。このため追加予算 (会議室代) を申請するので審議をお願いしたい。なお、これまで JC で行われていた審査のうち 6~7 割が東京支部 COC に移ってきている。

### ・ Fellow Nominations Committee

森田 FNC Chair より以下の通り報告があった。

Fellow 増強に向けて関連学会 (電気学会と映像情報メディア学会) と東京支部 Senior Member へのはたらきかけを行った。映像情報メディア学会には相澤 Chair に尽力頂き、両学会ともに協力を得られた。また、昨年から引き続き、応用物理学会と情報処理学会にも同様の案内をしてもらった。なお、2025 年 1 月 1 日付けの Fellow 昇格者が数日前に公開になった。「Japan」と記載がある人が 10 名となり、昨年より 1 名減った。所属先から推測し、東京支部の会員と推測される人をピックアップすると 6 名で昨年と同じ数である。東京支部の昇格者の中には樋口 Treasurer、重松 Past Secretary も含まれている。リスト上の中国人は 60 名だが、欧米等

に在住の人を含めると中国系の人はずっと多い可能性もある。日本は今後もまずは申請する人を増やしていくことが必要であるが、馬場次期 FNC Chair に引き継ぎたい。2025 年も同様の活動を継続する。

#### ・ Membership Development Committee

賀屋 MDC Chair より、以下の通り報告があった。

Senior 昇格者の表彰は、今までは代表者 1 名のみで実施したが、24 年度総会では、全員表彰式出席と Fellow を囲む懇親会を開催 (7 名参加)。Senior 昇格者は昨年度比 4 名増となり 3 年連続で増加。24 年度の全会員数は、前年同月比で 159 名増。4 年連続で増加。10 月時点で昨年比 12 月の人数を超えている。会員数は 21 年度から右肩上がり増加している。Senior 昇格者で Reference の 3 名の紹介依頼が相澤 Chair や中野先生にきていたものを MD へ回してもらい、これまで 2 名 (外国籍の方) の対応をした。大人数になるとこれでは対応できないが、現在はこのやり方で対応できている。2025 年の活動では、在籍年数に応じたバッジ配布も継続していく。IEEE 主催イベントでの PR に関してはデジタル化を検討したい。それに関連し、ウェブサイトの充填も検討したい。

質疑応答では、提出資料にある表 1 の前月比の数値についての質問があり、賀屋 MDC Chair からは、後日確認するとの回答があった。

#### ・ Technical Program Committee

松尾 TPC Chair より以下の通り、報告があった。

主催で通常会 6 回、Milestone の講演会として 1 回、共催 4 回の合計 11 回の講演会を開催した。最後の 1 回は 12/26 に日立製作所の六戸様を講師に、「カーボンニュートラル社会実現に向けた SF6 ガス規制の動向と、黎明期における SF6 フリー開閉装置の開発および最新の開発動向」をテーマとして講演会を開催予定。2024 年はハイブリッドとオンライン、どちらも取り入れた開催方法を試行した。HP の講演概要の工夫、事前の他学会での告知等で聴講者を一定数確保できているので、引き続き早めで分かりやすい告知を心掛けたい。2025 年も引き続き同様のハイブリッドとオンラインをどちらも取り入れた開催になる可能性が高いため、配信の品質向上や作業効率化のための必要機材のアップデートを図る。また、Milestone 案件が 1 件から 2 件に増加するため、その分の予算を計上している。

#### ・ Publications Committee

金 PC Secretary より以下の通り、報告があった。

11 月には第 3 回理事会開催報告、TPC と LMAG 共催の講演会について東京 Bulletin で紹介した。PC の主な業務は PC 以外の委員の活動を世の中一般に広報することがメインの仕事。今年はあと何件か発行する予定。資料にはないが、来年の活動としては、基本的には今年と同

様の活動を考え、次期幹事会社の日立とも引継ぎを調整している。また、Fellow 関連ページの修正は 12 月中に行う。廣畑 Chair にリードして頂き、Bulletin を予定以上発行することができた。

#### ・ Student Activities Committee

植村 SAC Chair より以下の通り、報告があった。

2024 年は SB 交流用の Discord サーバーを新設し、YP メンバーとの連携強化を実現。Student・YP・WIE・LMAG 共同で活動する機会も得た。また、東海大学・千葉大学にも新たな SB が設立された。TOWERS 運営メンバーへの感謝状贈呈を継続で実施し、運営メンバーは前年より 5 名増の 10 名となった。引き続き SB から YP へのエレベーション施策の強化を行う。前回からの差分としては、Carrier Development Workshop を SYWL で共同開催し、TOWERS を 11/23 に開催した。また、12/4 に GCCE2025 のキックオフシンポジウムが関西で開催されたが、明治大 SB から 2 名の参加希望があり、旅費支援をした。今後 TOWERS キックオフシンポジウムの費用がかかるため、お力添えを頂きたい。2025 年の活動計画は本年の活動を元を立てた。学生の活動は突然立ち上がることもあるため、SB 活動支援費として予算立てしている。申請金額は本年同様。

#### ・ History Committee

喜々津 HC Secretary より以下の通り、報告があった。

2024 年は、2022 年末のコロナ明け頃から増加したマイルストーン申請支援の成果が出て、複数案件が本部 BoD 承認を得た。日本光電のパルスオキシメーター、TRON 電腦ハウスの 2 件の授賞式が執り行われた。JCHC 委員会は年 1 回各支部持ち回りで開催されるが、2024 年は東京支部主催で 10/11 に東芝研究開発センターの新棟の見学も兼ねて実施した。仙台支部で検討したフラッシュメモリー、光ファイバー増幅器（中澤先生）の案件 2 件に関し、発明元の企業がある東京支部管轄ですすめるべきとの提案を受け、東京支部で検討を開始した。受賞式典に関しては、東京科学大小山教授による動的単一モードレーザーが BoD にて承認され、面発光レーザーも認定予定となっており、2 件合同の式典を同大学にて開催予定。他支部の状況としては、2024 年に認定された、四国支部の First Electrostatic Generator in Japan が地元メディアでも取り上げられ、人気案件となっている。

#### ・ Nominations Committee

中村 NC Chair より以下の通り、報告があった。

2023～2024 年を通し、次期（2025～2026 年）の役員、理事、常設委員会 Vice Chair、Secretary の候補者の選出・承認手続きを進めた。2024 年に進めたスケジュールについては、2023 年第 4 回東京支部理事会にて承認いただき、それに沿って進めてきた。推薦が上がった候補者について 6/14 の理事会で承認され、東京 Bulletin157 号にて会員に周知した。特に追加指名はな

かったため、そのまま進めた。Vice Chair と Secretary については 11/22 までに推薦者が提出され、先ほど承認された。2025 年の総会にて追認という形で承認が進められる。この 2 年間の進め方を今後も踏襲しつつ、EEE の年間スケジュールや Bylaws を確認し、スケジュールを検討する。2024 第 4 回 JC 理事会においてスケジュールの承認を得て、手続きを進めていく。

質疑応答では、役員や理事などの今後の選出方法について議論があり、滝嶋次期 JC Vice Chair から 2025～2026 年において検討したいとのコメントがあった。

#### <各委員会の 2025 年予算案についての審議>

申請された予算について審議され、承認された。

### 7. Affinity Group 2024 年活動報告・予算執行状況、2025 年活動計画・予算案【審議】

#### ・ Life Members Affinity Group

太田 LMAG Chair より以下の通り、報告があった。

主催のイベントの講演会では、特に新しい技術の動向を感じられるような、新しく Fellow に選出された方々の講演会をベースに TPC と共催し、その他見学会を LMAG 主催でいくつか実施。6 月にさがみこべリーガーデン見学会、11 月に YP、SAC、東京信越 WIE と連携して Carrier Development Workshop を開催した。さらに、IEEE Life Member Committee の中で進めている Group Initiative Mentoring System、学生が気軽に将来の相談などができるチャンスを増やすことを目的に Fund を獲得し、東京支部の中で、YP、WIE、SB が加わったイベントを開催している。その他の広報活動としてはニュースレター、HP、R10、本部ニュースレターなどへの投稿も行っている。2025～2026 年役員候補として、Chair は林秀樹さん、Vice Chair は杉江俊彦さん、Secretary は千葉いさむさんに決定。今回 MGM で規定されているプロセスに可能な範囲で従った形式で選挙を実施。

#### ・ Young Professionals Affinity Group

石垣 YP Chair より以下の通り、報告があった。

2024 年は R10 の SYWL Congress と併設開催された、YP CLAP イベントを開催した。また、SB との連携を中心に、SYWL 共同で活動する機会も創出し、複数のメンバーを新たに YP の運営活動に引き込むことにも成功した。2025 年はこれまでの活動を継続していきたい。また、IEEE R10 HTC2025 で引き続き Region10 とも連携を深めていく。東京支部 SYWL との共催で Carrier Development Workshop を開催。YP Salon2024 ではペンシルベニア大学の Uchino 先生を講師に迎え、「アメリカで成功するためには？」のテーマで講演会を開催。「出産育児オンライン座談会」というテーマにワークバランスを考えるなど、YP の関心を取り込めるようなイベントを開催。また YP でも選挙を行い、役員を決定した。2025 年は富士通の小野寺さんに Chair をお願いする。EA 関連の小学生向けのイベント、学生向けのイベントも計画して

いく。HTC2025 の運営に YP から複数名参加予定。運営メンバーにも必要経費が発生することも考慮し、予算は多めの総額で申請している。

#### ・ Women in Engineering

Kawamoto WIE Chair より以下の通り報告があった。

2024 年は WIE membership の資格や会費の詳細をイベントや outreach 活動で具体的に説明した。更に、R10 SYWL Congress 2024 の local organizing committee ボランティアの動員と WIE セッションの講演者の提供・サポートをした。主催・共催イベントを 10 回実施した。役員選挙についてだが、Affinity Group は Election Tools の全てを使うことはできない。本部の vTools おすすめのプロセスで実施したが、候補者がそろっても、選挙は 1 週間開けるなどの複数のルールがあり、本日が投票日締切。また、R10 Meeting にも参加し、HTC 運営委員会にも WIE メンバーを送っている。2025 年は通常の活動に加えて、中高生対象のsteamワークショップをトライしたい。また、R10 の WIE Committee にも東京支部のメンバーが数人入ることとなった。R10 が招集する会議は旅費サポートがあるが、それ以外は所属先の OU がサポートをするため、必要であればサポートをお願いしたい。2019 年に JC WIE が解散した時、信越はメンバー 1 人だったが、現在は信越から女性 2 名、男性 4 名がメンバーに加わった。

質疑応答では、各 Affinity Group の活動計画が審議され、承認された。

#### 8. 2025 年東京支部活動計画 【審議】

奥村 Secretary より、2025 年東京支部活動計については、各グループから上がってきた活動計画をまとめている。それに加えて IEEE 本部 R10 と連携として HTC、VICS の関連支援を計画しているとの報告があり、活動計画は承認された。

#### 9. 2025 年東京支部予算 【審議】

樋口 Treasurer より以下の通り、報告があった。

LRSC 会議で予算におけるドルの想定レートを 140 円に決定した。2023 年より 5 円上がった。Rebate に関しては、ドル建てで 2024 年と同じものを入れ、為替の分を変更。Fund については予定されているもののみ、各ユニットから報告が上がってきたものを記載している。Section Assessment の受け取りと還元をドル建てで 2024 年の実績を記載。還元は例年どおり。収入は 2024 年の予算とほぼ同様の金額となる。支出に関しては、例年通りの項目で記載している。会議費では TPC は先ほどの審議があったこと、2024 年の実績ベースの総会費用、SB 支援費、各ユニットの活動費は先ほど審議にあった金額を入れている。事務局費も例年通り。予備費で HTC2025 準備金（貸付）がある。詳細は滝嶋先生より説明あると思うが、未使用分については返金される。収支は赤字となるが、次年度への繰越が発生する。

質疑応答では、理事会後に修正版を出すことを前提に、2025年東京支部予算が承認された（理事会当時は一部の数値に間違いがあった）。

### 10-3. IEEE VICS 2025 へのスポンサー参加の提案【審議】

奥村 Secretary より、支部予算に関係があるという理由から、VICS2025 スポンサー参加の提案の審議をここで行う旨の説明があった。これを受け、相澤東京支部 Chair より以下の通り、報告と審議の提案があった。

2025年4月に東京で開催され、北米以外での開催は今回が初めてとなる。賞の授与式、講演が開催される2～3日にわたるイベント。IEEE本部が開催するものではあるが、東京での開催であることから、R10の組織として東京支部でスポンサーになることについて相談してきた。2024年はボストンで開催され、R1とR2、そしてBoston Sectionがスポンサーになっている。スポンサー企業としてはAkamai、三菱、AMD、Boston Dynamics等、組織としてはIEEE R1とR2、Boston Section、学校としてはMITの工学部、EECS、リンカーン研究所など。本部にも相談した所、東京支部とJCを合わせてスポンサーになる話が出てきた。これに伴い、JCと合わせて10人の参加券、セレモニーのテーブルを1つ。折半しているとして、5名ずつの枠を東京支部とJCに分ける。また、ロゴを出し、展示のためのテーブルも与えられる。グッズなどを置いてよいかと思っている。東京での開催であることも大変重要であるため、このスポンサーになる件を審議頂きたい。

質疑応答では、本件について承認された。

### 10-1. Educational Activities (EA) Chair の独立について【審議】

石垣 YP Chair (EA Chair 兼任) より以下の通り、報告があった。

2020年9月にEAが発足して以来、東京支部ではYP ChairがEA Chairも兼務してきた。EAの活動がYPに偏ってしまうのでは？との懸念から、今回審議の場を設けた。本日の審議はYPとEAを分離して、EAを独立させるかどうか。EA Chairの1名のみで予算もないため、YPの活動に偏っているのが現状。EAの活動は定義が広く、科学技術を多くの人に届けようという試みから、幅広い活動をしている。EAの位置づけは支部によっても異なり、関西支部ではEA Chairは独立し、予算もある。YPと分離するにあたり、YP側からはこれまで通り、YP=EAでもよいが、EAの活動自体の定義が広いので、Coordinator的に活躍できることが本来の役割なのではないか？という議論があった。一方で、EAを独立させた方がよい、という議論もある。独立させる場合には、東海大学の稲森先生を推薦したいと考えている。IEEEで幅広い視野で活動されており、適任者と考えられる。東京支部としてはこれ以上理事の数を増やせないため、SIGHTのようなオブザーバーという形での参加もあり得る。その点も審議頂きたい。

## 【質疑応答】

質疑応答では、EA を YP から独立させ、理事会にはオブザーバーとして参加する形で活動を開始する、ということで承認された。

### 10-2. SIGHT 報告

西宮 SIGHT Chair より以下の通り報告があった。

今年は全体的には新しいことをやってきた。LMAG と共催で見学会を開催したところ、現状や難しさを実感できた。昨年はじめた Humanitarian Activity Workshop を一般向けに幅広くやったが、今年は IEEE 内の国際会議 WCCI2024 の中の Workshop としてプロポーズし採択された。来年 R10 2025 が開催されているが、SIGHT も積極的に協力していきたい。2024 年は 6 月に見学会や Workshop を 6/30 に開催。それに派生し、JCCI2024 の際に Past President のサイファー氏からの提案を受け、来年 HTC2025 の来日の意向を受けた。東京 SIGHT は 2018 年から活動始まって以来私が Chair をしてきたが、この度選挙を行い、鈴木麻由美さんが SIGHT Chair に就任する。2025 年度の予定は、講演会や見学会を 6 月に開催、Humanitarian Activity Workshop は HTC2025 の中での開催を検討している。小学校への出張授業も予定している。2025 年の予算で、R10 HTC の参加料の申請漏れがあったが、予算総額が 2024 年分を超えることはない。

質疑応答では、SIGHT についての活動計画・予算について審議され、承認された。

### 10-4. HTC2025 報告

滝嶋 HTC2025 運営委員会実行委員長より以下の通り、報告があった。

8 月に HP 開設、銀行口座の開設、CFP の掲載・公開、助成金申請を進めている。可能な限り質の高い論文投稿を依頼している。マレーシアで開催された HTC2024 に 5 名が視察として参加した。まもなく HP 上で CFP が公開されるタイミング。参加費をできるだけ徴収したいと思うが、各種 Fund、スポンサーシップ等で補うべく申請している。東京支部が主催であることで、自己資金も求められている。東京支部からの準備資金を R10 から支給される金額と同額として設定しているが、これを予算として計上し、支給されたら返却の形をとるため、本件を審議頂きたい。HTC2024 は HTC2025 で準備しているものの半分程の規模（参加人数）での開催だったが、密度の濃い運営をしていた印象。気を付けたい点としては、開催場所の変更などの情報周知、Keynote Speech がスポンサーからのものがほとんどだったので、もう少しテクニカルなものを入れることなど。可能な限り質の高い論文投稿の奨励をお願いしたい。

### 10-5. 次期理事会への引継事項

奥村 Secretary より以下の通り、報告があった。

IEEE 本部・Region10 との連携・交流で HTC、VICS の開催支援が入ることになる。それ以外

では毎年開催される R10 Meeting、3年に一度開催される IEEE Section Congress が 2026 年に開催されるので誰かが参加することになる。次期 Action Item のところで、新しい選挙システムの導入についても引き継ぎたい。

**相澤 Chair より、2年間の活動を振り返った挨拶があった。**

1月に引継ぎ、平本先生、鈴木さん、久本さんのメンバーに代わるが、引継ぎ後すぐにあるのが韓国インチョンで開催されるイベントがあるが、R10の全体を知るためには、そこに行くことをおススメする。我々のときはベトナムだった。その際、様々な Section の方々と交流でき、各国での様子がわかり勉強になった。日本はドメスティックな学会は強いが、海外では違う様子がよくわかった。

**奥村 Secretary より、2年間の活動を振り返った挨拶があった。**

私もはじめて R10 開催の R10 会議や本部開催の Section Congress に参加し、IEEE セクション活動を知り、ネットワークを広げることができ、大変勉強になった。R10 と R11 に分けられると (2028 年以降)、中国、韓国、台湾での開催になるが、ぜひ参加してほしい。